

事業の背景・目的

「渡良瀬遊水地湿地保全・再生基本計画」に基づく湿地再生により復元される湿地環境を保全するため、既に侵入している外来植物の除去活動を実施するほか、外来魚類の駆除による在来魚の生息域拡大を図ることで、将来的にコウノトリ・トキが採餌し営巣することもできるような湿地生態系の保全・再生を図るとともに、渡良瀬遊水地の普及啓発に資するガイドの養成を行う。

【事業の目的】 渡良瀬遊水地における良好な湿地環境の保全、湿地保全活動の普及啓発に資するガイドの質の向上

事業の内容

渡良瀬遊水地第2調節池において、外来種駆除事業及び普及啓発事業を実施した。

事業① 渡良瀬遊水地第2調節池外来種駆除事業

・専門家指導のもと、関係機関・団体や企業、ボランティアの協力を得て、市民参加型の湿地保全活動（ヤナギ・セイタカアワダチソウ除去作戦）を実施

【5/12, 7/14, 10/13, 12/2, 2/23 参加者2,500人】

・特定外来生物を駆除し、在来魚や水生生物の増加を目的とし、地元漁協の協力のもと外来魚駆除活動（おさかなワイワイ大作戦）を実施

【5/26 参加者200人】



事業② 渡良瀬遊水地普及啓発事業

・渡良瀬遊水地エコツーリズムガイド協会を活用したガイド活動を実施（市内小中学生・一般向け）

【ガイド実績34件、ガイド人数1,680人】

・ガイドの育成及び質の向上を図るため、ガイド活動強化研修会や自然観察会、視察研修を実施

【研修会7/25, 9/10 自然観察会6/11, 10/8, 12/10, 2/11 視察研修（宮城県大崎市）12/20～21】

・自主事業としてヨシ灯り展の開催【3/29～30】



得られた成果

セイタカアワダチソウ等の外来植物を選択的に除去することで、渡良瀬遊水地に生息する希少種（トネハナヤスリやノウルシ、ワタラセツリフネソウ等）が広範囲で確認された他、活動による土壌攪乱により、イヌセンブリやミゾコウジュ等も確認された。また、外来魚駆除活動では、地引網を使用し、ブルーギルなど約300匹の外来魚を駆除した。活動後の生物調査では、ドジョウやオイカワ、ヤゴ等の在来種が確認された。現在、千葉県野田市放鳥コウノトリ「ひかる」が渡良瀬遊水地を拠点に1年以上長期滞在しており、これまでの活動が多様な生きものが生息する貴重な湿地環境の再生に寄与しているものと考えられる。

また、渡良瀬遊水地エコツーリズムガイド協会では、渡良瀬遊水地のヨシを活用したヨシ灯り展を実施した。本事業は、滋賀県近江八幡市への視察を参考に実施したもので、今後も先進地との交流を図り、ガイドの質を向上していきたい。